

生萱小唄

作詞 縣吟社

縣あがたの庄しょうとて その名も古き 命いのち生萱杏ももの里

ヨイシヨナ ヨイシヨナア ヨイシヨ ヨイシヨ ヨイシヨナア

昔思えば 皇塚すめらぎづかよ 今は桜うじがみしやの氏神社

ヨイシヨナ

うらら日和びよりに 御主おぬしと二人 蜷しじみひろいに生仁なまにがわ川

ヨイシヨナ

鳴子なるこひびくよ 穂波ほなみの中に 東湯沢や西湯沢

ヨイシヨナ

朝あさは觀音かんのん 夕べは薬師 智慧ちえは月夜の文殊堂

ヨイシヨナ

大城だいじょう照る照る 雲雀ひばりは歌う おとめ麦踏つるむ鶴が沖

ヨイシヨナ

今の流行はやりの 条桑育じょうそういくの 先駆せんく生萱 繭まゆの里

ヨイシヨナ

高野銅像いじゆつは 医術いじゆつのほまれ なおもひびいた二尺玉にしゃくだま

ヨイシヨナ

弘法大師こうぼうだいしの 刻いんだ地蔵 願ねがいかければ雨降らす

ヨイシヨナ

ひびくラッパは 青年会の 社会奉仕の除雪団

ヨイシヨナ

花の盛りの 太鼓の音は 昔ながらの神事祭しんじさい

ヨイシヨナ

春うれは嬉うれしや お宮の桜 やうち踊りしよ夜明けまで

ヨイシヨナ